

日本の海岸線を歩く会 行動報告書

報告者 森 正昭

1. 概要

地域分類	東海コース3/伊豆半島西海岸 下田～沼津
歩行区間	スタート地点:伊豆急下田駅
	ゴール地点:西伊豆町・雲見
実施期間	2013.10.10～10.12
全歩行距離	約 53.6 km

2. メンバー表

No.	役割・分担	氏名	年齢・期	歩行日数	備考
1	リーダー	江守 善昭	75歳、5期		
2		鹿島 静哉	72歳、8期		
3		森 正昭	71歳、9期		

3. 歩行の概要

	月日	出発地～到着地	歩行距離	歩行参加者	備考
1	10/10	伊豆急下田駅～下流	16.1km	江守、鹿島、森	
2	10/11	下流～石廊崎～吉田	22.8 km	江守、鹿島、森	
3	10/12	吉田～子浦～雲見	14.7 km	江守、鹿島、森	

4. 参加費

- 交通費/7630円
 - ◇ 10月11日 百合丘～伊豆急下田/2870円
 - ◇ 10月13日 雲見～松崎、松崎～蓮台寺/1890円、蓮台寺～百合丘/2870円
- 宿泊費/15500円・2泊
 - ◇ 10月10日 民宿 下流荘 7000円+1500円(特別料理/イセエビの刺身)
 - ◇ 10月11日 民宿 吉田荘 7000円(イセエビ付き)

5. 歩行記録

<2013.10.10 伊豆急下田駅～下流> 参加者;江守、鹿島、森 天気;快晴

10:00 3人で伊豆急下田駅前をスタートしようとしたら、背中を叩かれびっくり。振り向くと、下田に勤務する私の3男だった。彼は今日の宿を手配してくれており、夜、来てくれることになっていた。これから沼津まで出張するという。

途中、観光案内所を発見。その女性が、丁寧に南伊豆までの歩行ルートや見どころをガイドしてくれ、貴重な情報を得た。

10月というのに日差しはまだ夏だ。穏やかな海のかなたに三角形の利島、平らな新島が見える。サンドスキー場の先で、伊豆新聞の記者が待っていた。「日本の海岸線を歩いているという3人を見たという連絡できました。」とのこと。立ち止まったついでに、ガイド情報にあった竜宮屈を見る。この付近は田牛、なんと「とうじ」と読む。

当てにしていた食堂がないので手持ちのおやつで腹を満たし、集落のはずれからタライ岬遊歩道に入った。スタジ

イヤ笹の間の山道を歩くこと約1時間、弓ヶ浜に到着。名前の通りに弓型の砂浜が美しい。14時にやっとラーメンをすることが出来た。

手石の水産センターで、期待のイセエビを見せてもらう。6500円/kgなので、1匹で1000円見当か？こんなのが味わえたら感動もの！

強い西日の中を、下流(したると読む)の民宿・下流荘に到着。15:30だった。風呂上りのビールを飲みながら、泊ってきた宿の品定めを行ううちに、評価ポイントをつける話となった。評価項目は、料金、食事、風呂、部屋、ロケーション、おもてなし、加点ポイント、合計100ポイントとなる。

翌朝、昼食場所がなさそうだという話から、若い女主人がおにぎりを作ってくれた。ちなみに合計評価ポイントは92点。これまでの最高点です。機会があったら、皆さんぜひ寄ってください。65歳以上は、感動のシニア割引です。

<2013.10.11 下流～入間～吉田> 参加者:江守、鹿島、森 天気:晴れのち一時小雨

おかみさんに見送られ、下流荘を7:50出発。海沿いの日は車も少なく、歩くのも気持ち良いがすぐに汗が出て来た。鹿島さんの半ズボン姿を見て、自分が持ってこなかったことを悔やむ。

石廊崎灯台は何としても行っておかねばならないチェックポイントだ。その写真撮影を神社の神主さんをお願いしようと思っていたが不在で、残念ながら3人の記念撮影はなし。閉鎖されている植物園の脇から、県道16号にでてしばらく歩く。

看板に従い長津呂歩道に入ったが、進むに従い草が伸び放題、踏み跡も怪しくなった。やっと住居跡のような所を抜けて中木集落にでた。この荒れようでは遊歩道の看板が泣くというもの。

入り江の先に、案内所で聞いた柱状節理の山肌が目に入った。これまで見たこともないような広さで、触っても誰からも怒られないのが嬉しい。ここから南伊豆遊歩道に入り、入間に向かう。

遊歩道を登ったところで、下流荘のおかみが作ってくれた、おにぎりをいただく。これぞ出会いの旅のだいご味と感謝！感謝！

この道も、遊歩道と呼ばれるものの全くの山道で、草刈はされておらず、先頭を歩くとクモの巣だらけとなった。小さな上り下りが激しく、登山と変わらない。約2時間で入間集落に到着。湧き出す井戸水がうまかった。

ワンゲル1年の時に、7期の高木さん、同期の岩田さんと3人でこの辺を歩いた。そのころの道がこの遊歩道として残ったと思われるが、当時は日々の生活道路としてしっかり踏まれていたように思う。あれから50数年、車社会となり、今では地元の人も歩かないようだ。

入間～吉田の遊歩道は、入間の住人も歩いておらず荒れているようなので、国道136号へ迂回することを議決。峠への登りを歩く途中、空が暗くなり夕立となった。

国道から分かれ、更に峠へ降り下ること45分、吉田の集落に入ったが人影がほとんどなく風が吹き荒れている。吉田荘の看板を見つけて、恐る恐る戸をあけると作業場みたいな空間があり、その奥に別棟の母屋があった。小柄な人の良さそうなばあさんと、これまた年配のじいさんが出てきた。

古びた部屋に通され、ばあさんが「お茶代わりです」とビールを持ってきた。吉田荘着、16:40。ばあさんの話によると吉田の集落は19戸だが、住んでいるのは13戸、居住者は19人で全員が65歳以上。漁業はしていないという。何で生計を立てているのだろうと気になった。

夕食のテーブルには、立派なイセエビがどんと鎮座しており、わさび醤油で食べるとまさに絶品！キンメタイの煮付けも満足の一言だった。ここで、伊豆新聞に我らの記事が掲載されているのを見つけた。

宿の評価ポイントは、88点。

<2013.10.12 吉田～妻良～伊浜～雲見> 参加者:江守、鹿島、森 天気:快晴

翌朝、民宿のじいさんをお願いして軽トラックで国道136号まで送ってもらった。吉田と妻良をつなぐ遊歩道は歩く

人がほとんどなく、さりとて、136号への登り道をととも歩く気になれなかったためだ。

下車後、いつまでも我々を見送ってくれる姿が目には焼き付いた。心底から、心温まるもてなしをしてくれた老夫婦の末長い健康と長寿を願った。宿帳によると8月10日以来の客が、我々だった。吉田入口のトンネル前を8:05発。

妻良港を回り長いトンネルを抜けると、まばゆい光と青い海が広がっていた。子浦である。雑貨屋の女性は、この先伊浜までの遊歩道はがけ崩れで通れないと言う。結局、136号へ標高差120mの急坂を登ることとなった。

一町田の交差点で出会った人が、伊豆新聞を見たよと声をかけてくれた。「嬉しいですね！」波勝崎は遠くから見ただけにして通過、マーガレットラインを暑い中せせと歩く。「石部の棚田」に続いて「三坂富士」の道路標識が現れる。その標識の通りの富士山を、今回の歩行で初めてみる事が出来た。

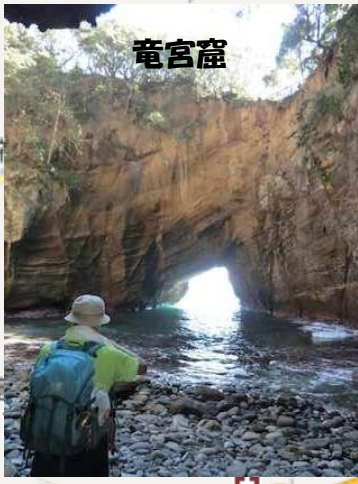
50 数年前の記憶によると、海岸沿いの道を歩き到着した雲見は「人影のない白砂の砂浜、すぐ近くの小島、遠くに富士山が見える」こんなところだった。しかし、136号の先にあった雲見は雑然とした温泉街となっており、バイパス道路が白砂の海岸の眺めを遮っていた。

昼食もそこそこに、観光案内所が紹介してくれた海沿いの露天風呂に向かう。ひと肌のヌル湯は、かなり塩分が強いが、歩行の締めくりにふさわしく、海の眺めはすばらしい。ここから12:50の松崎行バスに乗車し、帰途についた。なお、この雲見の湯は、無料で開放感があり、ぜひ皆さん立ち寄ってください。

注)

写真は、Casio GPS 機能付きカメラで撮影しました。この写真を、写真編集ソフト Picasa で展開し、Word にコピーし編集しました。

2013.10.10 伊豆急下田駅～下流（したる）
歩行：江守、鹿島、森



**2013.10.11 下流(したる)~吉田
歩行: 江守、鹿島、森**



海岸線歩き触れ合い
首都大ワンダーフォーゲル部OB
7日間で下田~沼津140km

10日までの予定で、大磯駅までの170km、ヤチヤチヤと歩く人が下田から沼津まで、伊豆の下田から沼津まで、田原まで、沼津まで歩いた。豆町の石廊崎まで歩いた。

ワンダーフォーゲル部の会員の18人中、7人が10月7日、8日、9日の3日間、伊豆の下田から沼津まで、田原まで、沼津まで歩いた。7日間で下田~沼津140kmを歩いた。

伊豆新聞記者(鹿島)が、森(江守)と鹿島(森)が、沼津まで歩いた。森(江守)と鹿島(森)が、沼津まで歩いた。森(江守)と鹿島(森)が、沼津まで歩いた。

伊豆新聞

©伊豆新聞社 発行



民宿吉田荘の夕食



南伊豆

南伊豆歩道

長津呂歩道

下流

出発地

到着地

吉田



仲木の柱状節理



2013.10.12 吉田～子浦～マーガレットライン～雲見

歩行：江守、鹿島、森



到着地

雲見



雲見の浜



雲見の露天風呂



石部の棚田



三坂富士



新聞見たよ!



子浦から136号への階段



出発地

吉田

三坂富士

地図データ ©2013 Google, ZENRIN - 利用規約

